

## シрилとヴィヴィアン

——オスカー・ワイルドの息子たちの写真をめぐって——

角 田 信 恵

オスカー・ワイルドにはふたりの息子がいた。1885年生まれのシрилと1886年生まれのヴィヴィアンである。そのふたりの写真について、ここ数年割り切れない思いを抱いている。

ヴィヴィアン・ホランドは1954年に『オスカー・ワイルドの息子』を出版した。筆者の手元には1957年出版のそのペンギン版の初版があるが、そのなかにシрилとヴィヴィアンのポートレートがある。ワイルドの妻のコンスタンスが1896年にハイデルベルクで撮らせ、別居していたワイルドに送ったとされる写真である（図版1）。こうした写真を見て、われわれはシрилはコンスタンス似で、



VYVYAN, HEIDELBERG, 1896



CYRIL, HEIDELBERG, 1896

図版 1

ヴィヴィアンはどちらかといえばオスカー似だと長い間了解していた。ところが、そうした認識を覆すような事態が生じてきている。しばらく絶版になっていた同書は、ヴィヴィアンの一人息子のマーリン・ホランドによって新たに序を付され、改訂版として1988年に出版された。筆者の手元にあるのは1999年にCarroll & Grafから出た版だが、この版にも図版1と同じ写真が入っている。ただし、それぞれの写真の説明文における名前が逆になって。

これら2枚の写真を挙げて、マーリン・ホランドと同様に、向かって左をシリル、右をヴィヴィアンとしている最初の例は、おそらく、1975年のH・モンゴメリー・ハイドの『オスカー・ワイルド伝』だろう。ヴィヴィアン・ホランドは1967年に死去している。彼の死後、彼が自分の幼少期の写真としたものが兄の写真だとされ、兄の写真としたものが彼の写真だとされたのである。もちろん、ハイドが勝手にできることではない。ハイドは同書において、故ヴィヴィアン・ホランドとマーリン・ホランドに謝辞を述べている。この時点では写真の所有権はマーリンに移っているから、ハイドがそれらの写真を使うにあたって、マーリンが父と伯父の写真についての父の説明にクレームをつけたのだと推測せざるをえない。

一方、図版2は旧版の『オスカー・ワイルドの息子』以来、一貫してコンスタンスとシリルの写真とされている。図版3は同書執筆時の69歳のヴィヴィア



図版2



図版3

ン・ホランドの写真として、同書に入っている写真である。こうした写真の顔立ちと見比べると、図版1の写真は、ヴィヴィアン自身による特定の方が妥当なように思われるのだが、そもそも本人が自分の写真と兄の写真を取り違えることがありうるだろうか。

ヴィヴィアンは同書のなかで述べている。(以下、同書からの引用はCarroll & Graf版による。)

父も母も自分より兄の方がお気に入りだということを、わたしはつねに意識していた。・・・『深淵より』のなかで、父は兄のシリルのことは名指して言及しているが、わたし自身については「ほくの子どもたち」とまとめて呼ぶだけで、名指しの言及はない。わたしは兄ほど丈夫ではなかった・・・わたしは兄より神経質だった。兄は小動物のようにたくましく、わたしより快活だった。(35)

実際は『深淵より』のなかにはヴィヴィアンに対する名指しの言及がある。ただし、「シリルとヴィヴィアン」というかたちで(Wilde 766)。両親のお気に入りのシリルに対して、どちらかといえば影のうすい存在だったヴィヴィアン。子ども部屋ではいいおもちゃはつねにシリルにとられ、イギリスのパブリックスクールやドイツの英国人学校ではひどいじめにもあったヴィヴィアン。『オスカー・ワイルドの息子』から読み取れるこうしたヴィヴィアン像にふさわしいのは、図版1の2枚の写真のなかで、本人が自分だと名指している方のように思われる。そちらの方が内気で、どこかおどおどしている少年の顔をしている。それにそちらの写真の少年の方が年下に見える。

マーリン・ホランドが『オスカー・ワイルドの息子』において初めて公表したふたりの幼年時代の写真は、ほかにもある。図版4と5がそれである。1997年出版の『ザ・ワイルド・アルバム』では、さらにこれまで未公開であった写真を公開している。図版6から8はそれらの一部である。こうした写真を見ていると、マーリン・ホランドが図版1の写真の名前を逆にした理由が推測できる。ヴィヴィアン・ホランドは『オスカー・ワイルドの息子』のなかで、「シリルは巻き毛で」(46)と述べている。マーリン・ホランドは髪がカールしている子どもをシリル、直毛に見える子どもをヴィヴィアンとしているようなのである。ふたりの子どもが仮装パーティでの扮装をした図版5の写真もまた、今ひとつのヒントであったのかもしれない。『オスカー・ワイルドの息子』のなかに、シリルはミレ



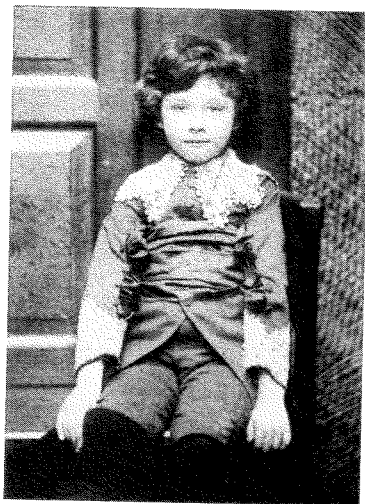
Vyvyan, in his favourite sailor suit; see page 44.

図版 4



Vyvyan and Cyril in "Aesthetic Costume"; see page 43-4.

図版 5



Cyril aged six.  
(photo Frederick Hollyer, London)

図版 6



Vyvyan Wilde about 1891 aged five.  
(photo William Salomon, Reading)

図版 7

一の「しゃぼんだま」に、ヴィヴィアンは「小公子」に扮することになっていたという記述があるから (43)、そこから白いレースの襟の少年をヴィヴィアンと考えたのだという推測もできるのである。だが、この写真のどちらが「しゃぼんだま」でどちらが「小公子」か、そう簡単には決められない。ミレーの「しゃぼんだま」とは石鹸製造業者のペアーズがその版権を買取って、宣伝に使った絵だが、そのモデルの少年が着ているのもやはり「小公子」風の衣装なのである。それにこの写真において、レースの襟の少年の方が大胆そうなのに対して、もう一方の巻き毛に見える少年の方はどこか控えめに見える。一方、図版6の写真でシジルとするのは図版2の写真と照らしあわせれば、妥当だろう。だが、図版7の子どももその顔立ちからすれば、図版6の子どもと同一であり、すなわちシジルだったのではないか。そして、図版4の少年も。図版1に関するヴィヴィアン・ホランド自身の特定からすれば、図版8の2枚の写真は名前が逆になっていると考えられるし、図版4の少年と図版5のレースの襟の子どもはシジルであったことになる。

マーリン・ホランドによるこうした写真の名前は、すでに定説になりつつあるようだ。1983年に出版されたアン・クラーク・アモールの『オスカー・ワイルドの妻』は図版1の向かって右の写真載せて、ヴィヴィアンの写真としているし、2000年に出版された『オスカー・ワイルド全書簡集』のイギリス版 (アメリカ版には写真は入っていない) も図版1の写真を2枚とも載せて、兄弟の名前をヴィヴィアン自身が記したのとは逆に記している。

もちろん、本当のところはわからないし、問題にするほどのこともない些細なことかもしれない。それに、ワイルドの子どもたちの写真はほとんどすべて、マーリン・ホランドの個人所有になるものだ。写真の裏にワイルド夫妻による説明があった、などということだって、ありうるだろう。マーリン・ホランドは父の誤りを訂正したに過ぎないのか



Above Vyvyan in his first summer of exile on the Continent, 1895.  
(Photo E. Potterat, Montreux)

Below Cyril aged about twelve in Genoa, 1897. Constance sent photos of the boys to Oscar on his release. 'I have heard from my wife. She sends me Photographs of the boys—such lovely little fellows in Eton collars.'  
(Photo Sciutto, Genoa)



図版 8

もしれない。それにしても、本人が自分の写真を兄の写真と間違えることがありうるのだろうか。もう少しすればヴィヴィアン・ホランドの古い本のことを覚えているひとたちもなくなる。シрилとヴィヴィアンの写真がなんの異議申し立てもされず、それらに関する疑問が解明されないまま、マーリン・ホランドの言うままが定説になるのではないかと、危惧している。

『オスカー・ワイルドの息子』には、ヴィヴィアンのシрилに対する対抗心は明らかだ。上述の引用とは別の箇所、彼は述べている。

わたしを妬む理由などまるでなかったが、兄は兄でわたしを妬んでいただろう。わたしの方では実際彼を妬むなどといったレベルではなかった。シрилは巻き毛で、父と母両方のお気に入りだった。彼はわたしより強靱で健康だった。・・・兄弟はふつう反目しあうものだが、たいていの場合その理由は、年少者の相対的な弱さに、年長者がいらだち、我慢してやらないことにある。年少者は自分の無力さをつくづく思い知らされるが、結局は仕方がないこととして、それを受け入れるのである。(46)

実際、ワイルド夫妻はヴィヴィアンの出生届すら出すのを怠っていて、いざ届けを出そうとしたときには、誕生日も正確には思い出せなかったという (*Son of Oscar Wilde* 36-7)。ヴィヴィアンのこうした屈折した意識をその息子が無意識のうちに引き継いで、父と伯父の写真を入れ替える。もし事情がそうだとすれば、オスカー・ワイルドは息子たちの写真の取り違えにまだ生きている。むろん、もし取り違えだとすれば、だが。

#### 参考文献

- Amor, Anne Clark. *Mrs Oscar Wilde: A Woman of Some Importance*. London; Sidgwick & Jackson, 1983.
- Holland, Merlin. *The Wilde Album*. NY; Henry Holt, 1997.
- Holland, Vyvyan. *Son of Oscar Wilde*. Harmondsworth; Penguin, 1954.
- Holland, Vyvyan. *Son of Oscar Wilde*. Foreword and Revised by Merlin Holland. NY; Carroll & Graf, 1999.
- Hyde, H. Montgomery. *Oscar Wilde: A Biography*. London; Eyre Methuen, 1976.
- Wilde, Oscar. *The Complete Letters of Oscar Wilde*. Ed. Merlin Holland and Rupert Hart-Davis. London; Fourth Estate, 2000.